



# 福島原子力事故関連情報アーカイブ

Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	福島県における放射性セシウムを含む捕獲イノシシの適正処理に関する技術資料の作成
Alternative_Title	Preparing technical materials on the proper processing of captured boars containing radioactive cesium in Fukushima prefecture
Author(s)	鈴木 隆央(国立環境研究所), 大迫 政浩(国立環境研究所), 山田 正人(国立環境研究所), 石垣 智基(国立環境研究所), 落合 知(国立環境研究所), 吉田 博文(福島県環境創造センター), 国分 宏城(福島県環境創造センター), 大町 仁志(福島県環境創造センター), 立尾 浩一(日本環境衛生センター), 大塚 弘幸(日本環境衛生センター), 佐藤 優衣(日本環境衛生センター) Suzuki, Takahiro(National Inst. for Environmental Studies); Osako, Masahiro(National Inst. for Environmental Studies); Yamada, Masato(National Inst. for Environmental Studies); Ishigaki, Tomonori(National Inst. for Environmental Studies); Ochiai, Satoru(National Inst. for Environmental Studies); Yoshida, Hirofumi(Fukushima Prefectural Center for Environmental Creation); Kokubun, Koki(Fukushima Prefectural Center for Environmental Creation); Omachi, Hitoshi(Fukushima Prefectural Center for Environmental Creation); Tachio, Koichi(Japan Environmental Sanitation Center); Otsuka, Hiroyuki(Japan Environmental Sanitation Center); Sato, Yui(Japan Environmental Sanitation Center)
Citation	第7回環境放射能除染研究発表会要旨集, p.33 The 7th Workshop of Remediation of Radioactive Contamination in Environment
Subject	セッション：環境再生・復旧・復興・野生生物・除染等作業安全
Text Version	Publisher
URL	<a href="https://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/157468">https://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/157468</a>
Right	© 2018 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第7回環境放射能除染研究発表会要旨集」のデータであり、発表内容に変更がある場合があります。 学会は発表の機会を提供しているもので、内容に含まれる技術や研究の成果について保証しているものではないことをお断りいたします。



## 福島県における放射性セシウムを含む捕獲イノシシの 適正処理に関する技術資料の作成

○鈴木隆央<sup>1</sup>、大迫政浩<sup>1</sup>、山田正人<sup>1</sup>、石垣智基<sup>1</sup>、落合知<sup>1,2</sup>  
吉田博文<sup>3</sup>、国分宏城<sup>3</sup>、大町仁志<sup>3</sup>、立尾浩一<sup>4</sup>、大塚弘幸<sup>4</sup>、佐藤優衣<sup>4</sup>  
<sup>1</sup>(国研)国立環境研究所,<sup>2</sup>北海道大学(現在),<sup>3</sup>福島県環境創造センター,<sup>4</sup>(一財)日本環境衛生センター

### 1. はじめに

全国的にイノシシやシカ等の有害鳥獣による農業被害が急増しているが、福島県等においては、農業被害対策として捕獲駆除された放射性セシウムを含むイノシシの円滑な処理が課題となっている。捕獲イノシシのほとんどは捕獲現場で埋設処理されており、一部は各自治体の既存焼却炉等で処理されている。捕獲現場での埋設作業は捕獲者にとって大きな負担であり、さらに埋設地が不足している。また、既存焼却炉での受け入れは多くの場合で事前解体が必要である。今後さらなる増加を見込む捕獲イノシシを適正に処理していくために、新たに検討されている減容化処理法等も含めた主要な処理方法ごとに、放射性セシウム対策、臭気や感染症等の生活環境保全対策等について技術的な留意点を取りまとめ、自治体向けの技術資料を作成した。

### 2. 情報収集

福島県内における捕獲イノシシ処理の実態を把握するために、福島県や数市町村等へのヒアリング調査、現地視察、文献調査により情報収集し、整理した。また、捕獲イノシシの焼却処理や生物処理を行う場合の放射性セシウムの挙動について、既存焼却炉や専用焼却炉、生物処理の実証試験等の事例をもとに整理した。

### 3. 技術資料の作成

情報収集等の成果を踏まえて、自治体が活用することを念頭におき、技術資料を作成した。技術資料の冒頭には、福島県における捕獲イノシシ処理の実態と課題について、イノシシ管理計画や放射性セシウム濃度の推移状況も含めて整理した。さらに、適正処理の基本的な考え方として、廃棄物処理法や鳥獣保護管理法等の観点から、捕獲イノシシの処理における法的位置づけを整理した。

また、技術資料では捕獲イノシシの主な処理方法を、①切断した個体の既存焼却炉への受け入れ、②生物処理・減容化処理した残さ物の既存焼却炉又は既存埋立処分場への受け入れ、③専用焼却炉設置による処理、④捕獲現場等での埋設処理の4つとし、技術的留意点を取りまとめた。例えば①では、自治体側で冷凍保管庫を設置し、個体のまま受け入れて冷凍したイノシシを、焼却施設に併設されている粗大ごみ用破砕機により切断して焼却処理する方法が考えられる。②は家畜ふん尿や木質チップ等から作成する菌床に捕獲イノシシを投入し、微生物作用を利用して好気性分解する方法である。



粗大ごみ用破砕機による切断

それぞれの処理方法の各工程で必要となる生活環境保全対策は様々であるが、技術資料では臭気対策、放射性セシウム対策、鉛対策、感染症対策の4つに分類し、整理した。臭気対策として特に留意が必要な工程は、生物処理の際の臭気発生である。イノシシ個体中のタンパク質等が微生物作用により分解される際に、アンモニア等の臭気成分が発生し、周辺環境や作業環境に影響を生じさせる可能性があるため、十分な換気や保護具の着用等が必要である。放射性セシウムの観点では、焼却処理における排ガスはバグフィルターにより高効率に除去されている。焼却残さについては、一般廃棄物焼却施設で混焼する場合はその影響は微々たるものであるが、専用焼却炉の場合は飛灰の放射性セシウム濃度が高くなる可能性がある。また、生物処理の際には、菌床への放射性セシウムの蓄積について留意が必要である。この他に、イノシシ体内に残存した銃弾由来の鉛や、血液やダニ等を介した感染症についても配慮が求められる。



生物処理による分解・減容化

市町村等においてイノシシの捕獲計画等を策定する際に、今回作成した技術資料を活用し、捕獲後の処理についても計画されることが望まれる。今回は処理方法を4つ提示したが、既存施設の施設条件や、新たに処理施設を整備する場合の立地場所や予算確保、捕獲者や関係事業者との協力関係、地域住民の理解等、各地域の状況を総合的に勘案して、適切な処理方法を選択することが望まれる。

【謝辞】本技術資料の作成にご協力いただきました各自治体・施設関係者の皆様に感謝申し上げます。